

第 1 表 耐候性シールド電線構成表

1	導 体	公称断面積 構 成	mm ² No/mm	0.06 12/0.08
2	絶 縁 体	種 類 厚 さ 外 径	mm mm	ポリエチレン 0.4 1.2
3	遮蔽編組	構 成 外 径	持/mm×打 mm	4/0.08×16 1.7
4	外 被	種 類 厚 さ 仕上り外径	mm	ポリエチレン 0.5 2.7

第 2 表 耐候性ビニール電線構成表

1	導 体	公称断面積 構 成	mm ² No/mm	0.2 19/0.12
2	絶縁外被	種 類 色 相 厚 さ 仕上り外径	mm mm	ビニール 黒 0.6 1.8

☆ ☆ ☆

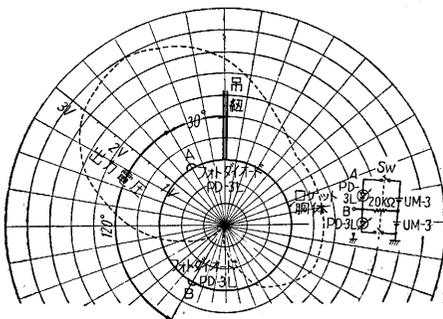
ス ピ ン メ ー タ

倉茂周芳・小羽根澄夫

バルーンステージのロケットの回転、およびロケット飛しょう中の回転を測定するためにスピナーを製作した。スピナーは原理を第 1 図に示すように、ロケット胴体に A, B の感光器を 120° の間隔で取り付け、太陽光線がそれぞれに当たれば正、負の電圧を発生せしめる。感光器には、シリンジカルレンズが装着され一平面内に指向性を持たされた PD-3L を使用した。ス

ピナーの回転角度に対す出る力電圧特性は第 1 図の点線で示す通り、二つの感光器に当たる太陽光線が平衡している時には 1.5V 不平衡になった時には 0~3V まで変化する。

このスピナーでは、回転速度は出力波形の週期により、また回転方向は波形の非対称性を利用して知ることができる。観測の結果このロケットのスピンのほかに概略のロケット飛しょう方向と飛しょうの天頂時を推定することができた。前者は感光器の取付け位置とスピナーの出力波形の位相より、後者は出力波形の変移により知ることができる。この波形の歪はロケットの尾部よりスピナーに太陽光線が当たる場合ロケットの尾翼が太陽光線を一時遮蔽することにより起こる。飛揚後約 30 分間雲のためにデータは得られなかったが、以後予期の結果が得られた。(1960. 2. 15)



第 1 図